

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 052

肥料を施用する上で、最も大切なことは「足りていない栄養を補う」ことです。農林水産省が主要作物に対し、三要素（NPK）を主に基準施用量を開示しています。基準施用量を参考に各圃場の土に合わせて施用量を調整するのはもちろん、NPK以外の「脇役」成分の相談にもものれることが、肥料の売り手には必要です。

三要素の次に多く必要な成分は？

作物が最も多く吸収する肥料分（水を除く）は窒素か加里である事が多いです、その次はりん酸、かと思いがちですが、実際はカルシウムや硫黄がそれに続きます。「りん酸よりも、カルシウムや硫黄が多く必要」ということを覚えておきましょう。

カルシウムは石灰資材として長年習慣的に投入され、施設作物ではりん酸と合わせて蓄積している場合も多く、減肥を考える生産者も増えています。

一方、硫黄は欠乏していることが多く近年問題となっています。りん酸と同様に生育初期に効かせた方が肥効が高いと言われる硫黄を基肥補給することをオススメします（硫安、硫黄資材、硫酸カルシウム、硫酸苦土 等を使うと良いです）

微量元素はどこに効く？

作物の吸収量は極少量だけど必要な、鉄、マンガン、ほう素、銅、亜鉛など「微量元素」。これらを全く補給しないとどうなるかご存じでしょうか？

- ・見た目の鮮やかさが無い
- ・三要素肥料の効きが悪い
- ・食味が悪くなる
- ・病気が止まらない
- ・虫がやたら寄ってくる
- ・生育が他所より遅い
- ・・・各色素の生成に微量元素が関係している
- ・・・各肥料が有効化されない（代謝不全）
- ・・・光合成能力維持や旨味成分の生成に支障発生
- ・・・養分蓄積や抵抗性に必要な酵素が作れない
- ・・・硝酸態窒素（害虫の好物）が作物内に溜まる
- ・・・生長点（茎葉先端部）の生育が滞る

などがあり、いずれも微量元素を補給することで改善されます。

上記のお悩み、お声を聞いたら弊社までご相談くださいませ。

（高pH土壌では微量元素の溶出が悪く、硫黄資材等でpHを下げる対策も有効です。右の資材がオススメです）

2023年もご愛読いただきありがとうございました！



硫黄資材

【ニューハモエース】

- ・硫黄の基肥補給
- ・土壌pHを低げる
- ・微量元素の活性化
- ・有機JAS適合資材
- ・地力の底上げ